

岡山県倉敷市（国内1例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和4年10月28日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は山間の谷沿いに位置し、周囲はシイ類や落葉広葉樹林及び竹林に囲まれ、農場周辺には複数のため池や農場を縦断する沢が存在した。
- ② 当該農場から約350mのため池にはヒドリガモ約240羽、オシドリ約50羽ほか合計6種約300羽のカモ類の生息が確認された。また水際には小型哺乳類の糞も認められた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、発生鶏舎（通報時556日齢）の10月25日以前の過去1週間の1日あたりの死亡鶏は10～15羽程度で推移していたとのこと。
- ② 発生鶏舎は2階建てのセミウインドレス鶏舎で、26日に35羽が鶏舎2階の一部のエリアに集中して死亡していたが、当該エリアで給水機の不調が認められたため機械を修理して様子を見たとのこと。その後、27日朝の見回り時には、当該エリア及びその直下の1階で合計95羽が死亡していたため家畜保健衛生所に通報したとのこと。その後、家畜防疫員立入時にさらに70羽の死亡を確認した。
- ③ 疫学調査時においても、通報時と同一の場所付近、通路を挟んだ向かいのケージにおいて死亡鶏や衰弱した鶏が多数確認された他、死亡鶏の多いエリアでは軟卵が認められた。発生鶏舎以外の鶏舎では異常は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では社員4名とパートの3名の計7名の従業員が勤務しており、鶏舎内における飼養管理作業やたい肥運搬は社員が担当し、集卵作業を社員及びパート職員が実施しているとのこと。
- ② 飼養管理者は鶏舎ごとに担当者を決めているが、状況により担当の鶏舎以外の作業を実施することもあるとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、車両が農場に入る際は、農場入口に設置されたゲート式の車両消毒装置で車両消毒を実施しているとのこと。
- ② 従業員は出勤時、衛生管理区域外に自家用車を駐車し、徒歩又は農場内用の車両に乗り換えて衛生管理区域内に入り、事務所で農場内専用作業着、長靴を着用し、手指消毒を実施するとのこと。従業員以外は、車両消毒後に衛生管理区域境界部で、農場内専用の長靴と上着を着用し、手指消毒を実施しているとのこと。
- ③ 鶏舎はセミウインドレス鶏舎3棟、開放鶏舎2棟で、いずれの鶏舎も全ての窓に金網が設置されていた。
- ④ 鶏舎に入る際は踏み込み消毒と手指消毒を実施し、前室に設置されているすのこの上で鶏舎内専用の長靴に履き替え、鶏舎内作業用の軍手を着用して作業しているが、軍手を着用したまま鶏舎外に出ることがあるとのこと。
- ⑤ 鶏舎単位で同一日齢の鶏が飼養されており、通報時点では農場内は5ロットに分かれており、191日齢～556日齢の鶏が飼養されていた。
- ⑥ 鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は除糞、鶏舎の洗浄消毒を実施し、2週間程度空舎期間を設けているとのこと。
- ⑦ 飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通して自動で給餌出来る構造となっていた。

- ⑧ 飼養鶏への給与水は井戸水を塩素消毒してから用いているとのこと。
- ⑨ 鶏糞は、セミウインドレス鶏舎からベルトコンベアで鶏舎横の集積場に運搬され、ほぼ毎日の頻度で自社トラックにより堆肥処理施設へ搬出していた。
- ⑩ 飼養管理者によると、死亡鶏は毎朝の健康観察時に回収し、農場内で毎日焼却し、焼却灰は鶏糞とともに堆肥処理施設へ搬出しているとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場周辺において時折イノシシ、タヌキ、ネコ等の野生動物やカラスを目撃することがあるとのこと。
- ② 鶏卵を搬出するバーコンベアの鶏舎外への開口部には、シャッター等の遮蔽は設置されていなかった。
- ③ 飼養管理者によると、コンベアの鶏舎出入口等ネズミの侵入経路となりうる箇所に殺鼠剤及び粘着シートを設置しており、まれにネズミがかかることがあるとのこと。